九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[09] エネルギー史研究ノート表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/13829

出版情報：エネルギー史研究ノート. 9, 1977-12-04. エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

編集後記

○ いつの間にか秋も深くなりました。本年をふりかえると、五月に九州大学において社会経済史学会の大会が開催され、「エネルギーと経済発展」という共通論題を設定して多数の報告がなされ、また自由論題でも関連の幾つかの報告がされたことは画期的なことでした。予想外の盛会でありましたが、成功であったか否か、今は直ちには言えません。ただ蒔いた種の芽生えんことを切に願っています。

○ 数年前九州大学に留学していたレギネ・マティアス嬢が明治期北九州の炭坑の労働力に関する論文により、七月五日ウィーン大学から学位を得たことは嬉しいことでした。彼女は秋からボン大学東洋言語学研究所の講師をしています。もう一つ嬉しいことは、本誌にも度々投稿していた麻生セメント資料室の今野孝氏が志を立てて大学院を受験し、来春は院生となることが決まったことです。内外において戦列が拡がりつつあるのを感じます。

○ 社会経済史学会の大会報告は社会経済史学会編『エネルギーと経済発展』として来年刊行の予定です。目下、各報告者・コメンテーターに執筆をお願いしています。

○ 本号は新鋭の四宮、山下両氏より充実した論文を得て巻頭を飾ることができました。また出水氏の風車の論文もユニークなものであります。今津健治氏のものは今夏東定宣昌氏や九大日本経済史研究室の若手諸君と共に若松石炭協会の資料整理、採録をされた過程から出た文字通り汗の結晶です。同氏らが採録された若松石炭協会の資料は今度刊行の『九州石炭礦業史資料目録』第四集に収載されています。

○ 稲富清氏の炭坑札に関する労作は早くからお預りしていたものですが、今回は編集の都合で一部しか掲載できないことをおわび致します。稲富氏には『北九州の炭坑札』の著書（孔版、自家版）があります。

○ 本誌も次回は№10をむかえます。最初のころ夢のように10号までゆけたらと言っていたことを思うと或る感慨があります。すべて感謝に堪えません。こうして続いていることは、それなりに存在の意義があるのでしょう。我々には何の組織も力もないが、学問をする者の暖かい連帯があることだけは確かです。これを単なる仲間うちのこととせず、あたたかく、且つきびしい学問の場として育ててゆかねばなりません。№10はとくに力を入れて編集したいと思います。傑作、力作をお寄せ下さい。

○ 『九州石炭礦業史資料目録』第四集は目下校正中です。やがて第五集の編集にかかります。文書記録、行政資料、会社・団体資料、文献目録等々、それぞれの立場で可能な面を持ち寄り御参加いただければ幸いです。

○ 『明治前期肥前石炭礦業史料集』（秀村・武野・田中・細川校訂）が刊行されました。御批判をいただければ幸甚です（文献出版刊、一三〇〇〇円）。

（S・H）

『エネルギー史研究ノート』 第九号

一九七七年十二月四日発行

編集
九州大学経済学部日本経済史研究室内
エネルギー史研究会

発行
福岡市中央区薬院四丁目一三―五一
財団法人 西日本文化協会
電話 〇九二（五三一）四五三八（代表）
振替口座 福岡一五九一八